

	博士前期課程	博士後期課程
情報	<p>修士論文あるいは課題研究報告書の内容とその口頭発表、および、口頭試問により審査を行います。修士論文には、新規性や有効性が重視されますが、その他に次の項目について審査を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の背景や目的を理解している 2. 研究課題に関する知識の整理がなされている 論文の序論、基本的な知識の解説、関連する研究、研究課題の意義など 3. 研究の進め方や研究方法について吟味がなされている 研究課題の解決に参考にした原理や方法 新たに提案した方法は正しく適切である 新たに提案した方法の有効性と評価 4. 提案した式や採用したデータが含まれている場合、それらが正確で、適切にまとめられている データは研究目的や研究方法に適合している 図表が研究結果を適切に表現している 5. 得られた結果と残された課題について考察している 研究の目的が達成された 結論について新規性や重要性がある 今後の研究の必要性や方向を述べている 6. 引用文献は適切である 7. 論文および口頭発表は論理的に分かりやすく構成されている 	<p>博士論文は新規性や有効性があり、その内容は、査読のある学術論文、査読のある国際会議、あるいは、著書などに公表しているか、公表される予定であるものとします。そのためには、前期課程の項目(1-7)は当然満たされているだけでなく、新たに社会に普及して、貢献することができる水準のものであることが期待されます。審査は、博士論文の内容と公聴会での口頭発表、および、最終審査により行います。審査の項目は次のものです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博士論文の内容は公表されている 2. 論文の内容には、国際的に新規性がある 3. 新たに提案した原理や方法は、社会で有効に適用されると期待できる 4. 将来への発展の可能性がみられる
バイオ	<p>修士論文の内容と口頭発表および口頭試問により審査を行います。バイオエキスパートコースの学生は研究論文Aあるいは課題論文、フロンティアバイオコースの学生は研究論文Bを作成して提出します。それぞれ以下の項目についての審査が行われます。</p> <p>研究の目的は十分に理解できているか 研究課題の背景や意義について知識の整理が十分になされているか 論文の序論や発表のイントロダクションに、研究を理解するための基本的な知識の解説や関連する研究についての説明、研究課題を考えた動機や課題が達成された場合の意義などについて簡潔にかつ明確に記載すること。</p> <p>研究計画や研究方法についての理解と十分な吟味がなされているか 研究の目的に応じてどのように研究を進めていったのかを全体像を示しながら、序論の中でも簡潔に記載する。研究方法や材料については、参考にした文献の引用も必要であるが、実験の再現性の観点から詳細な記載を行う。</p> <p>実験データや調査結果についての整理と解析は十分になされているか 単なるデータの羅列にならないように、各項目毎の研究目的や研究方法についても簡潔に記載し、各項目のタイトルが内容を反映するように分かりやすく整理する。図表については分かりやすく十分な説明を行う。</p> <p>得られた結果に基づいて仮説や結論の展開は十分であるか 序論の内容に対応づけて研究の目的がどのように、どの程度達成されたかについて簡潔にまとめ、新しい仮説や説明などの可能性や、結論についてはどのような点に新規性や重要性があるかを記載する。今後の研究の必要性や方向についても考察する。</p> <p>引用文献については適切であるか 論文や口頭発表は論理的に分かりやすく構成されているか</p>	<p>博士論文の内容と口頭発表および口頭試問により審査を行います。審査願いの提出や、それ以降の手続きなどについては、後述の博士後期課程修了要件に記されています。それぞれ以下の項目についての審査が行われます。</p> <p>研究の目的は合理的で独創性のあるものかどうか 研究課題の背景や意義についての知識は専門家として十分なもののか 論文の序論や発表のイントロダクションに、研究を理解するための基本的な知識の解説や関連する研究についての説明、研究課題を考えた動機や課題が達成された場合の意義などについて簡潔にかつ明確に記載すること。</p> <p>研究計画や研究方法について十分な吟味と説明がなされているか 研究の目的に応じてどのように研究を進めていったのかを全体像を示しながら、序論の中でも簡潔に記載する。研究方法や材料については、参考にした文献の引用も必要であるが、実験の再現性の観点から詳細な記載を行う。</p> <p>実験データや調査結果についての整理と解析は十分になされているか 単なるデータの羅列にならないように、各項目毎の研究目的や研究方法についても簡潔に記載し、各項目のタイトルが内容を反映するように分かりやすく整理する。図表については分かりやすく十分な説明を行う。</p> <p>得られた結果に基づいて仮説や結論の展開は十分であるか 得られた研究成果は学術上および応用面で貢献するものであるか 序論の内容に対応づけて研究の目的がどのように、どの程度達成されたかについて簡潔にまとめ、新しい仮説や説明などの可能性や、結論についてはどのような点に新規性や重要性があるかを記載する。今後の研究の必要性や方向についても考察する。</p> <p>引用文献については適切であるか 論文や口頭発表は論理的に分かりやすく構成されているか</p>
物質	<p>各審査委員が、修士論文内容および発表・質疑応答についてそれぞれ総合的に評価し、各100点満点で採点を行います。各審査委員の、論文、発表・質疑応答の各得点が60点以上の場合に、修士論文を合格とします。具体的には、以下の項目について審査を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の背景と目的が十分に理解されている。 ・研究課題に関する知識の整理が十分になされている。 ・研究計画や研究方法について十分な吟味がなされている。 ・実験データや理論計算の結果についての整理と解析は十分になされている。 ・得られた結果に基づく結論や仮説の展開は論理的である。 ・参考文献は適切である。 ・論文および口頭発表は論理的に分かりやすく構成されている。 	<p>提出された博士論文や公聴会を通して、研究の独創性、新規性、有効性が審査されます。その際の判断は原著論文の内容だけでなく、博士論文に記述された内容と博士論文提出者の科学に対する考え方、取り組み方についての論理性が問われます。</p> <p>博士論文の提出には、博士論文の内容の少なくとも一部分が査読付きの英文学術雑誌に、博士論文提出者が筆頭著者となった原著論文として発表されているか又は近々発表されることが決定していなければなりません。</p> <p>上記の点に加え、前期課程の各審査項目が当然満たされているだけでなく、博士論文提出者が、独立した研究者または技術者として、研究・開発活動を続けていくに十分な素養が備わっているかどうか審査の対象となります。</p>